

平成 27 年 在宅医療・介護連携拠点事業 多職種協働研修会

全国的の高齢化が進む中、吉野川市では平成 27 年 10 月末現在の高齢者率 33.1%です。10 年度には、昭和 22 年～24 年に生まれた「団塊の世代」が 75 歳以上となり、その時の高齢化率は 37.3%に達する見込みです。

平成 25 年度 8 月に出された社会保障制度改革国民会議報告書には、『「病院完結型」の医療から「地域完結型」の医療への転換する中で、人生の最終段階における医療の在り方について、国民的な合意を形成していくことが重要で、そのためにも、高齢者が病院外で診療や介護を受けることができる体制を整備していく必要がある』と書かれています。

地域で医療を支えていくことが推進されるように、地域の医療・介護関係者などの多くの職種が関わって連携して、切れ目のないサービスを提供することが求められています。この連携を果たす役割こそが「地域包括ケアシステム』です。

吉野川市では、平成 26 年 9 月より医師会が主体になり、在宅医療・介護連携拠点事業で様々な取組を行っていますが、切れ目のないサービスを提供するためには課題もあり、この課題を解決するために、先進地の事例を紹介してもらい、多職種の専門職や関係者が主体的に関わり合い、作り上げていくことができるように研修会を開催します。

研修内容：『地域包括ケアシステム』の実現にむけて

医療と介護の連携

日 時：2016 年 3 月 10 日（木）午後 2 時～4 時 30 分

場 所：吉野川医療センター大会議室

講 師：綾川町国民健康保険陶病院 院長 大原 昌樹 先生

講 義：在宅・医療機関・施設を結ぶ地域連携パスについて（60 分）

グループワーク：吉野川市で地域包括ケアシステムを構築するために各専門職や関係機関の役割について（60 分）